

あきる野市議会 自由民主党

～あきる野の未来に責任を持ち、
市民と協働して歩む～

志清会だより 第37号

※ 志清会は、あきる野市議会^{し せい かい}で志を同じくする9名の議員による政策グループです。

会長 幹事長 会計



ほりえ たけし
堀江 武史
洲上42歳④



むらの えいいち
村野 栄一
二宮東53歳②



なかもら かずひろ
中村 一広
油平51歳①



こごもり としひと
子籠 敏人
菅生46歳③



あまの まさあき
天野 正昭
小和田63歳②



なかじま ひろゆき
中嶋 博幸
留原53歳②



くぼしま せいいち
窪島 成一
平沢65歳①



ひはら しょうご
日原 省吾
野辺55歳①



うすい けん
臼井 建
秋留51歳①

※上段：氏名 下段：住所、年齢、当選回数

コロナ対策について市へ要望書を提出

私たちにとって、新型コロナウイルスは、未だかつてない経験となっています。これまでの感染症（SARSやHIVなど）は、主に特定の集団や地域において限定的に発生しました。しかし、新型コロナウイルスは違いました。世界中のすべての人たちに対して甚大な影響を与えています。このような未知なる経験の脅威に対して、私たちは、市民の生命と財産を守り、不安を解消するために、4月10日、以下のことを市長へ要望しました。

- ① 手洗い・うがい等の広報の強化
- ② 生活困窮者及び中小事業者への迅速な支援
- ③ 回復段階における地域経済活性化への支援
- ④ 教育現場におけるマスク等の備品確保
- ⑤ 修学旅行キャンセル費用の支援など
- ⑥ 子どもの食確保に伴う食事提供事業者を支援
- ⑦ 休校中の学習支援の拡充及び速やかにスケジュールを保護者に伝えるよう努めること。
- ⑧ 除菌効果が期待できる次亜塩素酸水の無料配布 など



るのバスは検討委員会で十分に審議を！～修正予算成立、市長の再議は失敗～

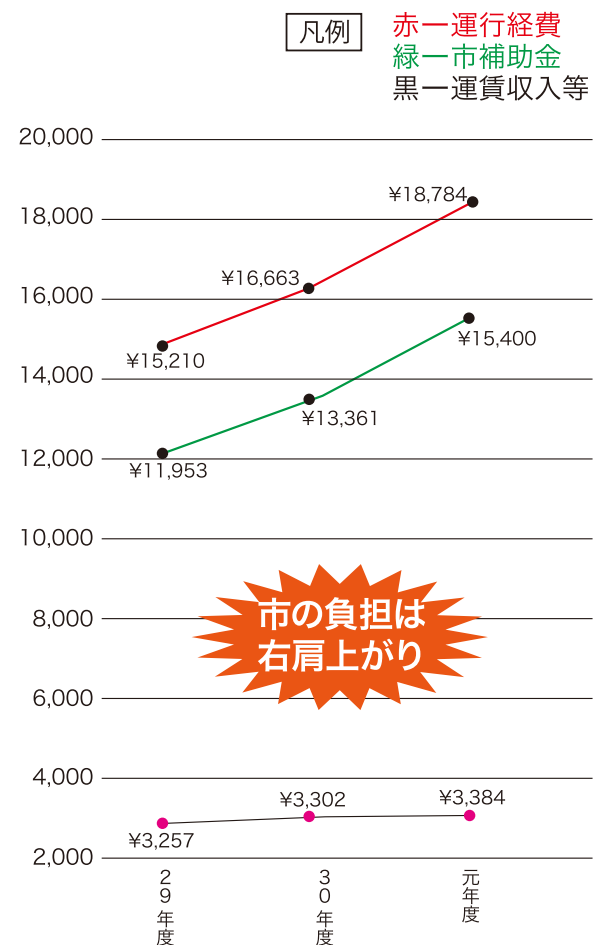
令和 2 年度^{し せい かい}のあきる野市の当初予算が成立しました。しかし、今回の予算において問題は、るのバスの車両購入予算でした。私たちは公共交通の充実を進めたいと考えており、会派の重点施策でもあります。市では現在、公共交通検討委員会で「公共交通空白地域」の解消に向けた議論を行い、タクシーなどを活用した実証実験を行っています。しかし、突如市から今までの内容と異なる方向性である「るのバスの車両購入」の方針が出され、委員会に動揺を与えました。市長を支援する議員からは、「とりあえずバスを買って、どのように実証実験を行うかなどの制度設計は時間をかけて考えれば良い」という姿勢が示されましたが、それは政策を実施していくうえで間違った考えであると思います。

私たちは、「そもそも公共交通検討委員会での制度設計が十分になされていない」と判断し、るのバスを1台増車しての実証実験を行うことは、時期尚早と考えています。また、市長の判断の中に「費用対効果」を全く考えていないことも問題です。るのバスの運行経費や市の負担金が右肩上がりで、運賃収入が横ばいの中(右のグラフ参照)、基礎情報である近隣自治体のバスの状況さえも把握せずにバスの購入に突き進むことは賢明な税の使い方ではありません。まず、今後の検討委員会での検討結果を踏まえて判断すべきです。

そこで、私たちは、バス車両購入ありきで計上されている予算部分については修正させていただき、災害対策などの他の予算については賛成するという内容の「修正案」を市議会に提出しました。その結果、公明党と私たちの賛成多数で修正予算案が可決しました。それに対して市長は不服を唱え、再議【もう一度議会で審議をし直すこと】を行いました。再議の結果でも、賛成多数(3分の2以上)で、修正案は可決し、市長の希望どおりにはなりません。

るのバス経費の推移 (単位：千円)

	29年度	30年度	元年度
運行経費	¥15,210	¥16,663	¥18,784
市補助金	¥11,953	¥13,361	¥15,400
運賃収入等	¥3,257	¥3,302	¥3,384



志清会の予算要望に対する主な反映状況 (皆様の声が届きました)

1 高齢者、障がい者が安心して暮らせるまちづくりの推進

- ・家族介護継続支援事業(35,740千円)
- ・認知症初期集中支援チーム運営事業(15,946千円)
- ・がん検診事業(100,510千円)
- ・在宅医療・介護連携支援事業(3,691千円)
- ・健康寿命延伸対策(地域イキイキ元気づくり事業)(9,200千円)
- ・障害者自立支援給付事業(1,497,589千円)

2 妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない環境整備の推進

- ・子育てひろば事業(37,358千円)
- ・ファミリーサポートセンター事業(12,952千円)
- ・放課後子ども教室推進事業(11,087千円)
- ・特定不妊治療費助成事業(3,250千円) など

3 防災・防犯対策の強化

- ・小和田グラウンド災害復旧事業(234,573千円)
- ・地震・台風災害対策事業(19,415千円)
- ・小中学校体育館空調設備設置事業(229,006千円)
- ・消防詰所整備事業(54,934千円)
- ・消防団装備品整備事業(6,472千円) など
- ・防犯対策事業(6,712千円)



小和田グラウンド

4 交通の安全環境の確立、公共交通対策の強化・充実

- ・小学校児童通学案内等業務委託料(25,121千円)
- ・都道伊奈福生線道路整備事業(235,970千円)
- ・橋梁維持事業(101,000千円)
- ・道路維持事業(125,843千円)
- ・公共交通検討事業(9,884千円) など

5 教育の充実

- ・子どもの学習支援事業(6,098千円)
- ・学力ジャンプアップ事業(16,400千円)
- ・小中学校教員補助員配置事業(17,362千円)
- ・特別支援教育推進事業(8,220千円) など

6 財源確保策の強化

- ・市有地売払収入(99,994千円)
- ・土地建物貸付収入(68,410千円)

7 農業・産業の振興、観光まちづくりの更なる推進、情報発信の充実

- ・都市農業活性化支援事業(22,482千円)
- ・新規就農者定着支援施設整備事業(29,508千円)
- ・創業・就労支援事業(14,300千円)
- ・秋川渓谷観光プロモーション事業(10,345千円)
- ・秋川渓谷観光推進事業(28,621千円)
- ・SNSや動画サイトなどを活用した情報発信の強化(1,586千円) など

武蔵引田駅北口土地区画整理事業見直しによる負の影響

市長は、武蔵引田駅北口土地区画整理事業の見直しの内容については、自らが招集した有識者による検討会議に依頼しました。検討の結果、事業費を減額する対策を行いますが、それ以外に**マイナスの影響**もありました。

事項	マイナスの影響 ※私たちがこれまでの状況をふまえ推測するもの
1 地権者の人生設計や移転対象者の建築計画	現在、相当期間(☆)の事業の遅れが見込まれることから、心理的負担や建築設計費用の負担の増加が心配されます。☆現時点で1年の遅れが推測される。
2 工事等の中止に伴う損害賠償請求	市長が突然工事を中止したことにより、工事については、 金銭的損害が発生 する可能性があります。
3 国・都の補助金減額	令和2年度に国・都の補助金約4.3億円を予定していたが、市長の工事中止により、申請ができませんでした。工事を補助金充当無しで施行せざるを得ない場合、 市の負担が4.3億円増加 することになります。
4 人件費増加	仮に事業が1年遅延した場合、担当職員及び非常勤職員の 人件費が1年分(約4,000万円) かかることになると考えられます。
5 電柱の地中化	平成30年度に都の補助率が上がり、市の負担分は既に「0」になっており、前市長のままでも約4,900万円は削減になっていました。
6 約2億円の税込	仮に事業が1年遅延すると、市への歳入が1年遅れることとなります。



「移転をこれ以上遅らせないよう、地権者が市長に要望」

地権者「なぜ調査をしたのか？」

市長「ある**議会の会派から要請**があった。書面でやると大ごとになるので電話でやった。」

私たちの試算では、検討会議で示された2.2億円の縮減は、少なくとも実質約1.3億(2.2億-0.4億-0.49億)であり、損害賠償請求や補助金の減額等によっては、さらに減少していく可能性もあります。

金銭的なマイナスの影響だけではありません。既に検討会議として「スーパーの誘致を中止しない」という方向性が示されているにも関わらず、一部の議員から要請を受け、市長は、中止の方向に誘導したいと思えるようなやり方(※)で地権者に聞き取り調査を行いました。検討会議の委員からは「バカにするな」という怒りもかっていたそうです。

このように、金額以外でも人との**信頼関係でもマイナスの影響**が出ています。結局、ハード面(道路の幅、スーパーの誘致など)の内容は、当初の予定通りとなりましたが、事業は相当期間遅れており、**大きな混乱を招いてしまったこと**を知っていただきたいと思えます。

※地権者にスーパーの誘致を中止した場合のデメリットも伝えず、電話での簡易的な聞き取り調査

トピック 3月議会の一般質問は、議会HPまたは「ギカイの時間(5月15日号)」をご覧ください。

問合せ先：自由民主党志清会
☎070-4342-6863